医薬品 研究報告 調査報告書

日本人男性に関する報告である。当社血漿分画製 削は原料血漿の段階で抗 HIV-2 抗体陰性を確認し ている。また、HIV に対するウイルスクリアランス	品等の区分	総合機構処理欄
販売名(企業名) - 公表状況 日刊業業, 第12105 号, 平成18年9月6 エイズウイルス(IIIV)のうち、世界的にも感染例が少ないHIV-2に日本人男性が初めて感染した。厚生労働省は、感染例の多いHIV-1に比べ HIV-2 は感染力が弱いため、診断や治療などでする一方、HIV-2の抗体検査の実施を徹底するよう都道府県に通知した。HIV-2 は主に西アフリカで流行しており、感染してから発病までの期間が長いという。国内での2人の感染が確認されたが、今まで日本人の感染例は無かった。男性は気管支喘息を患い、国内の医療機関に入院し、検査の結果、HIV-2に感染していることのアフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。男性は気管支喘息を患い、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。男性は気管支喘息を患い、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。男性は気管支喘息を患い、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。男性は気管支喘息を患い、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。男性は影にしている。 本月11日に厚生労働省に報告した。 田IV 抗体検査で陽性だった場合には、抗体の種類を判別する確認検査を行うが、国内感染者のにめ、HIV-1の検査を行わない医療機関もあり得るため、厚生労働省各都道府県に対し、HIV-2の検査も確実に行い、検査漏れがないよう通知した。 本人男性に関する報告である。当社血漿分画製別は原料血漿の段階で抗 HIV-2 抗体陰性を確認している。また、HIVに対するウイルスクリアランス	公表国	
による。 学生労働省は、感染例の多い HIV-1 に比べ HIV-2 は感染力が弱いため、診断や治療などでする一方、HIV-2 の抗体検査の実施を徹底するよう都道府県に通知した。 HIV-2 は主に西アフリカで流行しており、感染してから発病までの期間が長いという。国内での2人の感染が確認されたが、今まで日本人の感染例は無かった。 男性は気管支喘息を患い、国内の医療機関に入院し、検査の結果、HIV-2 に感染していることで 西アフリカに渡航し、現地で輸血した経験があるため、これが感染経路と見られている。男に し退院している。 入院先の医療機関から依頼を受けた厚生労働省研究班が検査を行い、遺伝子検査の結果、HIV-1 日に厚生労働省に報告した。 HIV 抗体検査で陽性だった場合には、抗体の種類を判別する確認検査を行うが、国内感染者のため、HIV-1 の検査だけをして HIV-2 の検査を行わない医療機関もあり得るため、厚生労働省各都道府県に対し、HIV-2 の検査を行わない医療機関もあり得るため、厚生労働省各都道府県に対し、HIV-2 の検査も確実に行い、検査漏れがないよう通知した。 今後とも HIV-2 に関する安全性情報等に留意していく。 今後とも HIV-2 に関する安全性情報等に留意していく。 また、HIV に対するウイルスクリアランス	日本	
世界的にも感染例の少ない HIV-2 に感染した初の 今後とも HIV-2 に関する安全性情報等に留意していく。 日本人男性に関する報告である。当社血漿分画製 別は原料血漿の段階で抗 HIV-2 抗体陰性を確認し ている。また、HIV に対するウイルスクリアランス	*制は従来通りと 1993 年に韓国籍 刊明した。過去に は既に症状が改善 であると確定、8	その他参考事項等 「重要な基本的注意」に原材料と る血液について抗 HIV-2 抗体陰性 確認している旨を記載。
日本人男性に関する報告である。当社血漿分画製 剤は原料血漿の段階で抗 HIV-2 抗体陰性を確認し ている。また、HIV に対するウイルスクリアランス		
指数が 9 以上であることを確認しているので、安全性について特に問題ないと考えられる。		



日

薬

業

日本人初のHI>2型感染で検査徹底を通知

NIHONSEIYAKU 2005-033

抗体検査の実施を徹底するよう都道府県などに求めている。 に比べ2型は感染力が弱いため、診断や治療などの体制は従来通りとする一方、2型の エイズウイルス(H 初めて感染していたことが4日分かった。厚生労働省は、 IV)のうち、世界的にも感染例が少ないHIV2型に日本人男 感染例の多いHIV1型

染が確認されたが、今まで日本人の感染例はなかった。 での期間が長いという。国内では1993年11月と2002年1月に韓国籍の2人の感 2型は主に西アフリカで流行しており、1型に比べ感染力が弱く感染してから発病ま

していることが判明した。過去に西アフリカに渡航し、 男性は気管支喘息を患い、国内の医療機関に入院し、 これが感染経路とみられている。男性はすでに症状が改善し退院している。 現地で輸血をした経験があるた 検査の結果、HIV2型に感染

型の検査だけをして2型の検査を行わない医療機関もあり得る。このため厚労省では先 2型であると確定、先月1日に厚労省に報告した。HIV抗体検査で陽性だった場合に 入院先の医療機関から依頼を受けた厚労省研究班が検査を行い、遺伝子検査の結果、 抗体の種類を判別する確認検査を行うが、国内感染者のほとんどが1型のため、 日付で各都道府県に対し、2型の検査も確実に行い、検査漏れがないよう通知した。

先端医療振興財団 助成事業の概要を公表

C)に加盟し、推薦を受けたNPO(民間非営利団体)などの民間団体。同一団体からの 及啓発に関する講演会やシンポジウム。応募対象団体は日本がん患者団体協議会(JCP 円を計上した。助成対象は、07年度に行われる市民・患者を対象にした、がん情報の普 複数応募はできない。助成先は財団の審査委員会で決める。公募申し込み受付期間は9月 究情報センター(神戸TRI)の活動の一環で、1件当たり50万円、年間総額250万 に関する講演会等への助成事業」の公募に関する概要を公表した。財団傘下の神戸臨床研 15日~11月15日。 神戸市の先端医療振興財団は5日、2007年度から実施する、「がん情報普及・啓発 詳細は、 財団ホームページ(http://www.ibri-kobe.org/)

テムリック 第1種医薬品製造販売業許可を取得

契約を締結し、 降になる見通し。今年4月にはすでに2品目としてシエーリングからがん治療薬の導入 開発権・販売権を導入し、 〇として2002年に事業を開始したが、4年に「TM―411」(多発性骨髄腫)の いた、自社開発品の承認申請のために取得した。テムリックはがん領域に特化したCR 製造販売業」の業許可を8月24日付で取得したと発表した。CRO業務とは別に行って CR〇(医薬品開発業務受託機関)のテムリックは4日、東京都から「第1種医薬品 7月末に 創薬事業を始めた。 511」として治験届を提出した。 同剤は現在治験実施中で、

医薬品 研究報告 調査報告書

歳別番号·報告回数│			報告日	第一報入手日	新医薬品	等の区分	機構処理欄
**************************************				2006. 8. 22	該当	iなし	
一般的名称	洗浄人赤血	.球浮遊液		H Cordel, I Quatreso		公表国	
販売名(企業名)	洗浄赤血球「日赤」 照射洗浄赤血球「日素		研究報告の公表状況	Paquet, E Couturier. Eurosurveillance weel 2006, volume 11, 8, 2		インド	
チクングンヤウイバ のチクングンヤ疑い 南西部の島々で流 研 に検出された。191	ハ症例が報告されて 流行し、その後マダガ 73年のインド西部での	がインドで拡大して いる。北部の州から スカルとインドでも の流行以降はサー	いる。2005年12月以降最いは1例も報告されていない報告された。インドにおけるベイランスは実施されてお	、2004年末以降、ヲ るチクングンヤは、19	・クングンヤに 163年にコルン	はインド洋の カタで最初	使用上の注意記載状況・ その他参考事項等 洗浄赤血球「日赤」
究報告の概要 最近の研究では発売では、受証者を関係をは、関系のでは、受証的のでは、ののでは、ののでは、ののでは、は、自己のでは、は、自己のでは、は、自己のでは、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	珍してもRNA陽性となると激痛、発症5日以下上持続し、数ヶ月~うやすくなっている。イヤであるが、流行地域は2006年3月に血液とか、ウイルス流入と	さるのは1日目から4 をのかゆみを伴う弱数年間続くこともあ ンド洋のCHIKV分け なへの渡航者の感う 暴露によると考えら 地域内/持続感す である。さらなる感す	生だったが、実際の発生等日目のみで臨床検査は関点状丘疹で、多くは自己においる。温暖湿潤な気候と貯水を外の遺伝子構造はウイルシスクは引き続き存在するいる国内感染例が発生しまのリスクについてさらに調整拡大を抑えるための対策としたって症状を大きく総	図ははるかに高いとき しい。症状は、38.5 限定的で1~10日持 へ池は媒介蚊の繁殖 レスが急速に変異す 5。輸入症例が欧州の でいる。媒介蚊の一 をが必要である。 の強化が求められる	ぎえられる。病 ~40℃の高熱 続した。 関節 に適した環境 ることを示図か の多くのるとトン	院に行かな 熱、筋肉痛、 痛は症例の きで、貧しい している。 ら報告され スジシマカは	血液を介するウイルス、 細菌、原虫等の感染 vCJD等の伝播のリスク

	サロエネッあり
ı	チクングンヤウイルスの感染がインドで拡大しており、ヨーロッパ
	へのウイルス流入と地域内感染が危惧されるとの報告である。



Resurgence of chikungunya virus in India: an emerging threat

SK Saxena¹ (shailen@ccmb.res.in), M Singh¹, N Mishra¹, V Lakshmi²

Since December 2005, an outbreak of chikungunya virus (CHIKV) infection has been ongoing in various states of India (Karnataka, Maharashtra, Andhra Pradesh, Tamil Nadu, Madhya Pradesh, Gujarat, Orissa and Kerala) with potential spread to neighbouring states [1,2]. Cases were first recognised and reported in December 2005. In July 2006, India's National Vector Borne Disease Control Programme (NVBDCP) reported a reduction in the number of cases in the affected districts while other districts are now becoming affected for the first time. The spread is of unprecedented magnitude and over 896 500 suspected chikungunya cases have been reported since December 2005 from the five worst affected states (Andhra Pradesh, Karnataka, Maharashtra, Tamil Nadu and Madhya Pradesh) [3]. No chikungunya cases have been reported from the northern states.

Recent large-scale outbreaks of fever caused by CHIKV infection in India have confirmed the reemergence of chikungunya in this part of Indian subcontinent. Since the end of 2004, chikungunya has emerged in the islands of the southwestern Indian Ocean (Comoros, Mauritius, Seychelles and Reunion), where several hundred thousand cases have been reported. Chikungunya was later also reported in Madagascar and in India [4,5]. Chikungunya is not new to the Indian subcontinent. Since it was first detected in Calcutta in 1963 [6], there have been reports of CHIKV infection in different parts of India [7,8,9]. Previously, the most recent Indian chikungunya outbreak was reported in 1973 in western India, in Barsi, Sholapur district, Maharashtra state [10]. Subsequently, there has been no active or passive surveillance carried out in India and it was believed that chikungunya had disappeared from the Indian subcontinent [11,12].

A recent study looked at samples taken from over 140 symptomatic patients with clinical picture of chikungunya who were presented to the Nizam's Institute of Medical Sciences hospital in Hyderabad (the capital of Andhra Pradesh) in March and April 2006. About 50% were found positive for the presence of CHIKV specific RNA (through demonstration of the virus-specific 500 bp amplicon) by reverse transcription-polymerase chain reaction (RT-PCR) [V Lakshmi et al, unpublished data]. However, the true incidence is thought to be much higher, because due to the self-limiting nature of the illness a large proportion of patients did not go to hospital, and even for those who did, laboratory diagnosis proved difficult as RT-PCR was positive for the virus in samples collected between the first and fourth day only, indicating the viraemic phase of the infection. Most patients with acute CHIKV infection presented with high fever (ranging from 38.5°- 40°C), muscle pain, headache and swelling and severe pain in the joints with polyarthralgia (pain in several joints) followed by an itching maculopapular rash five days after onset. Symptoms were generally self-limiting and lasted 1–10 days. Almost 10% of cases reported had prolonged joint pain for more than three weeks. However, joint pain may persist for several months or years. Females were more affected than males, a feature probably associated with the daytime and indoor feeding habits of the mosquito vector in India, Aedes aegyptii. All age groups were evenly represented.

Warm, humid climates and water reservoirs serve as an excellent breeding ground for the vector of the virus, *Aedes* mosquitoes. With an increase in temperature, susceptibility of mosquitoes to CHIKV increases [13]. High population density, lack of adequate resources for vector control and hygiene added to the vulnerability of poor people to chikungunya infection. The unique molecular features of the recently analysed Indian Ocean isolates of CHIKV [4] suggest that the virus can evolve rapidly. Studies are in progress to confirm genomic structure and virulence of the recent CHIKV from India.

Although the disease is self-limiting, the risk to non-immune travellers from other parts of the world to areas with a chikungunya epidemic, including India, continues to exist and should be included in the differential diagnosis of travellers returning home with fever. The magnitude of this risk cannot be precisely determined at this time. There is a risk of importing the virus to Europe from affected parts of the world, including Africa and South East Asia, where the virus is endemic. Imported cases have been reported from a number of European countries, including an autochthonous case from France in March 2006, probably contaminated through a blood exposure incident [14]. Considering the extent of the current chikungunya outbreak, the risk of introduction and autochthonous/sustained transmission of the virus in Europe needs further investigation, because one vector, the tiger mosquito A. albopictus, is also present in Europe and could increase the likelihood of its future autochthonous transmission in these countries. Various recommendations have been suggested by European experts to ensure the measures to prevent the emergence of imported viral diseases are strengthened in

¹Centre for Cellular and Molecular Biology, Hyderabad, India

²Department of Microbiology, Nizam's Institute of Medical Sciences, Hyderabad, India

Europe [5,15]. Pregnant women, families with young children, older people, and those with significant comorbidity should be advised to consult their physician before travelling to the Indian subcontinent, and travellers should be informed about the magnitude of the risk of contracting the disease and decide according to their own judgment. There are no specific preventive medications or vaccines for chikungunya fever, but there are steps travellers can take to reduce risk of being bitten by infected mosquitoes [15]. Despite infecting millions of people worldwide, chikungunya infection has been neglected since its discovery. Worldwide, there are a number of other infections with mosquito-transmitted viruses (arboviruses) with similar symptoms which may be confused with chikungunya, such as Sindbis, Ross River and dengue, and these, together with a detailed travel history, should be considered in the differential diagnosis in returning travellers.

Considering high number of cases, and lack of specific antiviral therapy, it is imperative that specific antiviral agents and vaccine be developed. Although the disease is self-limiting, sustained and intensified control measures (such as regular fogging with pesticides, awareness of the disease and vector, detection and elimination of vector breeding sources, proper facilities for health care and community awareness about the prophylactic measures) are required to control the further spread of the disease. The government of India has taken up necessary steps, in accordance with the NVBDCP guidelines on reducing mosquito breeding sources, use of temephos larvicide in recommended doses, the release of larva-eating fish (*Gambusia*) into the wells and the water bodies to control the mosquito menace and deployment of mobile teams (three teams per district in the affected districts, consisting of epidemiologists, public health specialists, microbiologists and entomologists for assessment of the situation and providing technical assistance and guidelines) and mobilisation of health workers and volunteers [16,17]. Finally, measures to improve clinical management, especially early detection, nutritional support to the affected patients, and other preventive measures may largely mitigate the disease. The wider issues of ecology, current agricultural practices, water management systems, and human behaviour patterns will need to be reviewed. This requires a combination of strategies and we need to proceed with a sense of urgency in this matter.

References:

- 1. WHO Epidemic and Pandemic Alert and Response (EPR). Chikungunya and Dengue in the south west Indian Ocean. Disease Outbreak News, 17 March 2006. (http://www.who.int/csr/don/2006_03_17/en)
- 2. Four states affected by Chikungunya, says government. NewKerala.com website. 26 July 2006. (http://www.newkerala.com/news3.sphp?action=fullnews&id=28694) [accessed 01 August 2006]
- 3. Chikungunya India (04). in: ProMED-mail [online]. Boston US: International Society for Infectious Diseases, archive no. 20060801.2120, 1 August 2006. (http://www.promedmail.org)
- 4. Schuffenecker I, Iteman I, Michault A, Murri S, Frangeul L, Vaney MC, et al. Genome microevolution of chikungunya viruses causing the Indian ocean outbreak. PLoS Med 2006; 3(7): e263. Epub 2006 May 23. (http://www.pubmedcentral.gov/articlerender.fcgi?tool=pubmed&pubmedid=16700631)
- 5. Depoortere E, Coulombier D. ECDC Chikungunya risk assessment group. Chikungunya risk assessment for Europe: recommendations for action. Euro Surveill 2006; 11(5): E060511.2. (http://www.eurosurveillance.org/ew/2006/060511.asp#2)
- Shah KV, Gibbs CJ Jr, Banerjee G. Virological investigation of the epidemic of haemorrhagic fever in Calcutta: isolation of three strains of Chikungunya virus. Indian J Med Res 1964; 52: 676-83.
- 7. Jadhav M, Namboodripad M, Carman RH, Carey DE, Myers RM. Chikungunya disease in infants and children in Vellore: a report of clinical and haematological features of virologically proved cases. Indian J Med Res 1965; 53: 764-76.
- 8. Dandawate CN, Thiruvengadam KV, Kalyanasundaram V, Rajagopal J, Rao TR. Serological survey in Madras city with special reference to chikungunya. Indian J Med Res 1965; 53: 707-14.
- Thiruvengadam KV, Kalyanasundaram V, Rajgopal J. Clinical and pathological studies on chikungunya fever in Madras city. Indian J Med Res 1965; 53: 729-44.
- 10. Padbidri VS, Gnaneswar TT. Epidemiological investigations of chikungunya epidemic at Barsi, Maharashtra state, India. J Hyg Epidemiol Microbiol Immunol 1979; 23(4): 445-51.
- 11. Pavri K. Disappearance of Chikungunya virus from India and South East Asia. Trans R Soc Trop Med Hyg 1986; 80: 491. 12. Ravi V. Re-emergence of Chikungunya virus in India. Indian J Med Microbiol 2006; 24: 83-4.
- (http://www.ijmm.org/article.asp?issn=02550857;year=2006;volume=24; issue=2;spage=84;aulast=Ravi)
- 13. Mourya DT, Yadav P, Mishra AC. Effect of temperature stress on immature stages and susceptibility of Aedes aegypti mosquitoes to chikungunya virus. Am J Trop Med Hyg. 2004; 70(4): 346-50.
- 14. Cordel H, Quatresous I, Paquet C, Couturier E. Imported cases of chikungunya in metropolitan France, April 2005 February 2006. Euro Surveill. 2006; 11(4): E060420.3. (http://www.eurosurveillance.org/ew/2006/060420.asp#3)
- 15. Chikungunya fever Information for travellers [Fact sheet]. European Centre for Disease Prevention and Control. 17 July 2006. (http://www.ecdc.eu.int/outbreaks/Chikungunya_reunion.php)
- 16. AP data shows Chikungunya declining. Sify Cities website. 27 June 2006. (http://sify.com/cities/hyderabad/fullstory.php? id=14236355) [accessed 22 July 2006]
- 17. Efforts on to control chikungunya. The Hindu. 14 July 2006. (www.hindu.com/2006/07/14/stories/2006071405140300.htm) [accessed 8 August 2006]

back to top

.....

医薬品

医薬品 研究報告 調査報告書

化粧品

				化粧	品					
識別	番号·報告回数		回	年	報告 月		第一報入手日 2006 年 8 月 8 日		薬品等の区分 該当なし	総合機構処理欄
	一般的名称			研究報告			Simian foamy virus infect whole-blood transfer in macaques: potential for transfusion transmission Khan, A.S. and Kumar, D. Transfusion, 46, 1352-135	hesus in humans 9 (2006).	米国	
研究報告の概要	と命名) として月 染した (追跡期間 i) 輸血されたt ii) 感染ドナー iii) 末梢血単枝 興味深いことに	目い,各ドナーあたり2頭の間は輸血後1年間)。感染は けルにおける特定 SFV 抗体の サルの末梢血単核細胞 (PBM 支細胞 (PBMNCs) からの感染 ,ドナーのサルはそれぞれ り中和抗体価が顕著に高か	のレトロウ は以下の方 の発現 MNCs)から 及び複製 S 具なる複	イルス陰 法で証明 の SFV 特 FV の分離 関動態を持	性サル された 有配を 手つ S	ルに全血を こ。 列の PCR 増 IFV 菌株に	されている。2 頭の自然感染し、輪血したところ,D1 から輪血 幅 感染していた(D1 の SFV は D2 はヴイルス接種量なども感染	された2g の SFV より	類のサルだけが感 のも複製速度が早	使用上の注意記載状況・ その他参考事項等 BYL-2006-0240 Detection and molecular characteri-zation of foamy viruses in Central African chimpanzees of the Pan troglo- dytes troglodytes and Pan troglodytes vellerosus subspecies. Calattini, S. et al, J. Med. Primatol. 35, 59-66 (2006).
		報告企業の意見					今後の対応			
た。 in v ム内	また, ヒトの感 /itro で高い細胞	長類では SFV 感染による病変染例もほとんどなかった。 型変性を示し、ヌクレオチし 込まれる。現時点では、ヒーではない。	しかし, S ド配列は宿	FVs は, 主ゲノ			安全対策上の措置を講じる必 集に努める。	要は無いと	∠考える。引き続	



TRANSFUSION COMPLICATIONS

Simian foamy virus infection by whole-blood transfer in rhesus macaques: potential for transfusion transmission in humans

Arifa S. Khan and Dhanya Kumar

BACKGROUND: Cross-species infection of humans with simian foamy virus (SFV) has been reported in European and North American nonhuman primate (NHP) handlers, primarily due to wound injuries involving infected animals in research centers and zoos. Additionally, African hunters have been found to be infected with SFV by exposure to body fluids, blood, or tissues of infected NHPs in the wild. The persistence of infectious virus in peripheral blood mononuclear cells (PBMNC) and the recent identification of some infected blood donors has raised safety concerns regarding potential virus transmission by blood transfusion.

STUDY DESIGN AND METHODS: SFV infection by blood transfusion was evaluated by whole-blood transfer from two naturally-infected rhesus macaques (designated as D1 and D2) to retrovirus-free monkeys. Blood from D1 was transfused to two recipient monkeys R1 and R2 and from D2 to monkeys R3 and R4. Virus transmission was evaluated by immunoassays, polymerase chain reaction assays, and coculture of PBMNC for SFV isolation.

RESULTS: SFV infection was seen in R1 and R2 based on development of virus-specific antibodies, identification of SFV sequences in monkey PBMNC, and isolation of infectious virus from PBMNC. Furthermore, both R1 and R2 remained SFV-positive at about 1 year after transfusion, which was the last time tested. No evidence of SFV infection was seen in R3 and R4.

CONCLUSION: SFV transmission in macaques occurred by transfusion of blood from one of two infected donor animals. These results indicate the potential of SFV transfusion transmission in humans, which may depend on virus-specific or donor-related factors.

ross-species transmission of retroviruses to humans is an important public health concern as exemplified by the origin of human immunodeficiency virus (HIV) from simian immunodeficiency virus (SIV).1 The extensive use of nonhuman primates (NHPs) in biomedical research and broad exposure to infected animals in the wild has facilitated crossinfection of humans with simian foamy virus (SFV), which is highly prevalent in all NHP species and possesses a broad host range and cell tropism.2-4 The first human transmission was reported in 1971 due to injury by an infected chimpanzee.5 Reports of cross-species human infection with SFV have increased since the mid-1990s⁶⁻⁹ and the use of more sensitive detection assays have further indicated additional NHP handlers infected with SFV due to injury incurred by infected animals 10-12 as well as identification of people infected in Africa due to exposure to body fluids and meat while hunting and butchering of NHPs.13

It is noteworthy that although infectious virus has been demonstrated to persist long-term in human cells, in vivo and in vitro^{6,14,15} there is, thus far, no report of disease associated with SFV and no evidence of SFV transmission between humans.⁶

The persistence of stably integrated, infectious retrovirus sequences in human peripheral blood cells raises

ABBREVIATIONS: CPE = cytopathic effect; IUPM = infectious units per million total PBMNC; NHP(s) = nonhuman primate(s); PBST = phosphate-buffered saline with 0.05 percent Tween; PBST+5 percent = PBST plus 5 percent milk; SFV = simian foamy virus; SIV = simian immunodeficiency virus; RT = reverse transcriptase.

From the Laboratory of Retrovirus Research, Division of Viral Products, Center for Biologics Evaluation and Research, U.S. Food and Drug Administration, Bethesda, Maryland.

Address reprint requests to: Arifa S. Khan, PhD, 8800 Rockville Pike, HFM-454, Building 29B, Room 4NN10, Bethesda, MD 20892; e-mail: arifa.khan@fda.hhs.gov.

Received for publication March 14, 2005; revision received December 23, 2005, and accepted December 24, 2005.

doi: 10.1111/j.1537-2995.2006.00862.x

TRANSFUSION 2006;46:1352-1359.

concerns, however, regarding the safety of blood transfusion from SFV-infected blood donors. In fact, testing of archived sera identified six SFV-seropositive blood donors. 10 A retrospective study of four recipients of blood components (red cells [RBCs], filtered RBCs, and platelets (PLTs)) from one infected blood donor failed to demonstrate SFV infection; however, it was noted that additional studies are warranted to further evaluate the potential risk of SFV transmission by blood transfusion.16 This is especially important since transmission by transfusion has been demonstrated as an important mode of acquisition of infections in humans with other retroviruses. 17,18 In this article, we have examined SFV transmission by wholeblood transfusion in a monkey model. Blood from SFVinfected donor animals was transfused into retrovirus-free monkeys, which were analyzed for SFV infection and persistence. This study evaluates the potential human risk of SFV infection by infected blood donors.

MATERIALS AND METHODS

Monkeys and blood transfusion

SFV-negative blood recipients were juvenile, rhesus macaques (Macaca mulatta) that were obtained from a group of animals in a domestic breeding colony (LABS of Virginia, Morgan Island, SC), which were free of SIV, simian T-lymphotropic virus, and simian retrovirus. Animals were identified as SFV-negative with a dot blot antibody assay¹⁹ (Simian Diagnostic Laboratory, San Antonio, TX) and shipped in individual cages to the FDA animal facility (National Institutes of Health, Bethesda, MD). All animals were maintained in accordance with the Guide for the Care and Use of Laboratory Animals 20 under an approved protocol by the Institute Animal Care and Use Committee. The animals were housed in single cages and in a separate room from the SFV-infected blood donor monkeys. Only animals that were confirmed SFV-negative by serology and by polymerase chain reaction (PCR) analysis of peripheral blood mononuclear cell (PBMNC) DNA at the time of study initiation were used in the study. A control animal was housed in the same room as the blood recipient animals to demonstrate absence of cross-contamination due to housing and handling of the animals.

Donor animals, RhK3T and RhA2V (designated as D1 and D2, respectively, in this article) were adult rhesus macaques, naturally-infected with SFV that were maintained in single housing and in a separate room from SFV-negative animals. Donor animals were well characterized: SFV from D1 and D2 (designated as SFV-D1 and SFV-D2, respectively) were previously isolated from monkey PBMNCs and characterized in replication studies to evaluate virus fitness and nucleotide sequences were determined in the long terminal repeat region. The status of SFV infection in D1 and D2 was confirmed by serology and virus isolation from samples stored on day of blood transfer.

Blood was collected under sedation with ketamine hydrochloride (10 mg/kg). Before transfusion, blood was collected in anticoagulant (heparin or ethylenediaminetetraacetate [EDTA]) from the donor and recipient animals for preparation of PBMNC, plasma, and serum. At the time of transfusion, blood was collected in EDTA for additional PBMNC and plasma preparation and in separate tubes for blood chemistry and hematology. For blood transfer, blood (20 mL) was collected in heparin (1000 U, 1 mL, Elkins-Sinn Inc., Cherry Hill, NJ) from D1 for transfusion (10 mL each) with a butterfly catheter into the right saphenous vein of two recipient monkeys, RhCK2T and RhCK3H (designated as R1 and R2, respectively, in this article). Each animal was separately handled, and mats were changed in between each animal. Similarly, blood from D2 was transferred to RhCJ3K and RhCJ52 (designated as R3 and R4, respectively, in this article). After the blood transfer, 10 mL of saline was injected into a "housing control" animal RhOVG. Monkeys were monitored for healthy recovery after the blood transfusion based on temperature, heartbeat, and respiratory rate. After transfusion, blood was collected at various times in EDTA for PBMNC and plasma preparation for analysis of virus infection. Additionally, at each time of blood collection, serum chemistry and hematology were performed (Antech, Lake Success, NY).

Detection assays for SFV antibodies

SFV-specific antibody was detected by dot blot immunoassay¹⁹ performed by the Simian Diagnostic Laboratory. The samples from each animal were collected and stored for concurrent analysis in the same assay.

SFV-seropositive animals were confirmed by Western blot analysis. Cell lysates were prepared from uninfected and SFV-2-infected Mus dunni cells (wild mouse fibroblasts; ATCC, Manassas, VA) as previously described.21 Protein concentration was determined with a protein assay dye (Bio-Rad, Hercules, CA). Sixty micrograms of protein was heat-denatured and analyzed on an 8 percent Tris-glycine gel (Novex, San Diego, CA), run 1.5 hours at 125 V (Novex X-cell II system, Novex, San Diego, CA) in 1× Tris-glycine running buffer (24.8 mmol/L Tris, 192 mmol/ L glycine, 0.1 percent sodium dodecyl sulfate). Proteins on the gel were transferred to nitrocellulose membrane (Invitrogen, Carlsbad, CA; 0.45 $\mu m)$ at 30 V for 1 hour in 24.8 mmol per L Tris, 192 mmol per L glycine, 20 percent methanol. The membrane was cut into strips so that each strip contained 5 µg of protein. The strips were placed, protein side up, in individual wells of a plastic tray; rinsed at room temperature for 5 minutes each with Ultrapure water, phosphate-buffered saline (PBS) without Ca^{2+} - Mg^{2+} , PBS (pH 7.3)-0.05 percent Tween (designated as PBST); and blocked overnight at room temperature in PBST containing 5 percent nonfat dried milk (designated as

PBST+5%). The strips were then incubated with 1:100 dilution in PBST+5 percent of plasma or serum, except in case of monkey D1 where 1:500 dilution of plasma was used. The membrane strips were initially incubated for 2 hours at room temperature and then overnight at 4°C on a rocker. The strips were brought to room temperature and washed three times for 5 minutes each in PBST+5 percent and then incubated for 2 hours at room temperature with a 1:500 dilution in PBST+5 percent of horseradish peroxidase (HRP)-conjugated goat anti-monkey IgG (Cappel-ICN Pharmaceuticals Inc., Aurora, OH). The strips were then washed five times for 5 minutes each in PBST, and the protein bands were visualized by chemiluminescence with a substrate system (Supersignal CL-HRP substrate system, Pierce, Rockford, IL). The substrate was added to the membrane strips for 2 minutes, the strips then blotted with paper (Whatman 3 MM, Maidstone, Kent, England) to remove excess substrate and exposed for various times ranging from 5 seconds to 2 minutes with film (BioMax MR, Kodak, Rochester, NY).

Neutralizing antibody endpoint titers were determined in assays with homologous virus (SFV-D1 with plasma from D1 and SFV-D2 with plasma from D2). MRC-5 cells (ATCC CCL-171; human lung fibroblast) were planted in a 24-well plate with 30,000 cells per well (Passage 25) in Eagle's minimum essential medium (modified) with Earle's salt without L-glutamine (Cellgro, Mediatech, Herndon, VA) containing 10 percent heatinactivated fetal bovine serum (FBS; Hyclone, Logan, UT), 2 mmol per L glutamine, 250 U of penicillin per mL, 250 µg of streptomycin per mL, 1× nonessential amino acids (MEM-NEAA 100x, Quality Biological, Inc., Gaithersburg, MD) 1 mmol/L sodium pyruvate in a total volume of 2 mL. Cells were incubated overnight at 37°C, and 0.2 mL was removed to replace with test sample. Monkey plasma (heat-inactivated) was diluted twofold (ranging initially from 1:50 to 1:1600) in PBS, pH7.4, without calcium and magnesium (Quality Biological, Inc.), initially ranging from 1:50 to 1:1600. Plasma samples were incubated for 1 hour at room temperature with equal volume of SFV (100 TCID₅₀ per 0.1 mL), after which 0.2 mL was removed and added to each well, in triplicate. The tray was incubated at 37°C and cells observed for cytopathic effect (CPE) up to Day 13, when the final results were recorded. The antibody endpoint was the highest dilution of plasma that inhibited CPE in all replicate wells.

DNA preparation and PCR analysis

Cryopreserved PBMNCs were recovered in RPMI and washed with cold PBS (without Ca^{2+} and Mg^{2+}), and DNA was prepared with a DNA blood mini kit according to the manufacturer's protocol (QIAamp, Qiagen, Valencia CA) except that all spins were at $15,800 \times g$ at room temperature

and the DNA elution time was increased to 5 minutes at room temperature. DNA was aliquoted and stored at -80°C.

SFV sequences in PBMNC DNA were amplified by PCR with previously described conditions with set B outer primer pair and inner primer pair (3+5 and 6+7, respectively²¹). The sensitivity of the outer primer set was shown to be 10 viral copies in 10^5 cell equivalents of cellular DNA. The identity of the SFV sequences was confirmed by nucleotide sequence analysis of gel-purified DNA fragments (gel DNA recovery kit, Zymoclean, Orange, CA), obtained with primers 6 and 7. PCR primers, which amplified an 838-bp fragment of the human β -actin gene (Clontech, Palo Alto, CA), were used as a control for the presence of DNA in the sample. The PCR mixture without DNA was used as the negative control.

Nucleotide sequence analysis

Nucleotide sequence reactions were set up with primers 6 and 7, according to the protocol with a cycle sequencing kit according the manufacturer's protocol with 5X sequencing buffer (BigDye Terminator Version 3.1 cycle sequencing kit, Applied Biosystems, Foster City, CA). The sequence reactions were purified with spin columns (CentriSep, Princeton Separations, Adelphia, NJ), and sequences were determined with a DNA sequencing system (ABI Prism 377, Perkin-Elmer Applied Biosystems, Foster City, CA).

Blood processing and virus isolation

PBMNC and plasma were prepared from blood containing EDTA as preservative (SeraCare Bioservices, previously BBI Biotech Research Laboratories, Inc., Gaithersburg, MD). Plasma was aliquoted and stored at -80°C. PBMNC were prepared by the Ficoll-Hypaque method, aliquoted, and cryopreserved. For virus isolation, PBMNC were stimulated in a 24-well plate with 5 µg per mL phytohemagglutin (PHA; Murex Biotech Ltd, Dartford, Kent, England) for 72 hours in RPMI containing 10 percent (1000 U) human interleukin-2 (Roche, Indianapolis, IN), 10 percent FBS (heat-inactivated 56°C for 30 min; Hyclone), 2 mmol per L glutamine, 250 U of penicillin per mL, 250 μg of streptomycin per mL. PHA-stimulated PBMNC were added to M. dunni cells $(1.3 \times 10^6 - 1.9 \times 10^6)$ in a 75-cm² flask for coculture in Dulbecco's minimum essential medium containing 10 percent FBS, 2 mmol per L glutamine, 250 U of penicillin per mL, 250 μg of streptomycin per mL in a total volume of 20 mL. Cultures were passaged every 3 or 4 days when the cells reached confluency and maintained until culture termination due to extensive CPE or at least 30 days. PBMNC were added back to the cultures for three passages after the initial coculture. Filtered supernatants were collected and stored at various times during the culture period for Mn²⁺-dependent reverse transcriptase (RT)

assay.²¹ SFV identity was confirmed at culture termination by PCR amplification and nucleotide sequence analysis.

PBMNC viral load determination

MRC-5 cells were planted overnight as described above for the neutralization assay. One-milliliter of medium was removed and replaced with 1 mL containing fivefold serially diluted monkey PBMNC ranging from 1×10^6 cells per mL to 320 cells per mL per well. Each dilution was tested in at least four replicates. The plate was incubated at 37°C for 14 days. Filtered supernatant was collected and analyzed for SFV by a PCR-enhanced RT assay (STF-PERT 22). The TCID $_{50}$ was calculated by the Kärber method 23 and infectious units per million total PBMNC (IUPM) expressed as the reciprocal of the TCID $_{50}$.

RESULTS

SFV infection occurred in two recipient monkeys (R1 and R2) that were transfused with blood from donor animal D1, but not in the two animals (R3 and R4) that received blood from donor animal D2 or in a saline-injected control animal.

Detection of SFV-specific antibodies in transfused monkeys

Plasma from study animals was analyzed for SFV-specific antibodies at various times after transfusion. The results of dot blot assays are shown in Table 1. The earliest time at which SFV antibody was detected in R1 and R2 was 22 and 16 weeks, respectively, after which time both animals remained positive. The control animal was negative at all tested times.

The antibody status of the animals was further evaluated by Western blot analysis. The results in Fig. 1 indicate the presence of SFV antibodies as early as Week 1, which decreased over time, representing passive transfer of donor antibodies. The resurgence of antibodies was seen at Week 22 in R1 and at Week 16 in R2 indicating the development of antibodies in response to virus infection after transfusion. Antibodies to SFV proteins persisted at Week 48, the last time point tested: the 65K and 70K proteins most likely correspond to the diagnostic Gag doublet seen in all infected species (p68/71²⁴). Passive antibody transfer also occurred in R3 and R4 after blood transfusion from D2; however, there was no evidence of new antibody development due to virus infection (data not shown). No SFV-specific antibodies were seen in the control animal.

Detection of SFV sequences in monkey PBMNC

The kinetics of SFV infection by blood transfer were evaluated by PCR analysis of monkey PBMNC DNA. SFV-specific primers amplified a 349-bp fragment from R1 and R2 from PBMNC at Week 8 after transfusion and thereafter (Fig. 2). The expected size β -actin fragment was seen in all the samples, indicating the presence of intact DNA in the samples. The identity of the PCR-amplified fragment from

Weeks after transfusion	Monkeys					
	R1	R2	Contro			
0	_	-	_			
1	_	_	_			
2	-	-	_			
4	-	-	_			
8	_	_	-			
11	_	_	-			
16	_	+/	-			
22	+	+	-			
30	+	+	-			

All samples were run in the same assay, and each sample was analyzed in two independent assays. Differences in the results in the two assays are indicated. Negative is less than 1:5.

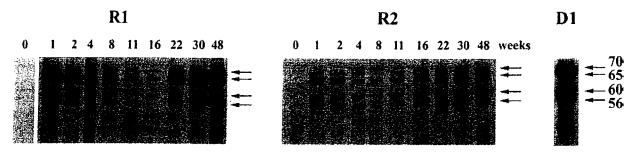


Fig. 1. Detection of SFV-specific antibodies by Western blot analysis. Monkey plasma samples, obtained on day of blood transfusion (Week 0) and at various weeks after transfusion (except Week 16, where serum was used), were incubated with immunoblot strips containing lysate prepared from SFV-2-infected *M. dunni* cells and proteins visualized as described under Materials and methods. A 5-second exposure of the autoradiogram is shown. The molecular masses of prominently visible, SFV-specific proteins, calculated from standard markers (MultiMark, Novex, San Diego, CA), are indicated in kilodaltons.

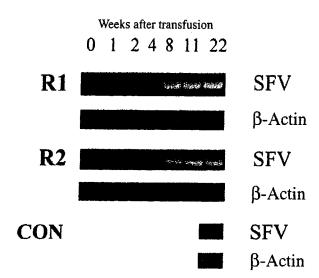


Fig. 2. Detection of SFV in monkey PBMNCs by PCR assay. SFV-specific primers were used to analyze PBMNC DNA as described under Materials and methods. DNA samples were prepared from PBMNCs that were obtained on the day of blood transfusion (Week 0) and at the indicated times after transfusion. PCR amplification with β -actin primers confirmed presence of DNA in the samples. CON = control.

the 22-week sample of R1 and R2 was confirmed by nucleotide sequence analysis. As shown in Fig. 3, the SFV sequences in R1 and R2 were identical to the SFV in D1. SFV-specific sequences were not detected in R3 and R4 at any time up to 30 weeks (the last tested time), including early time after transfusion, where passive antibodies were present (data not shown). The control animal was negative by PCR with SFV primers.

SFV isolation from monkey PBMNC

To determine whether the SFV sequences detected in R1 and R2 were associated with an infectious virus, monkey PBMNCs from Week 11 and Week 22 after transfusion were cocultured with M. dunni cells. The cultures were monitored for replicating SFV by the appearance of CPE in the cell monolayer and by RT production in cell-free supernatant. The RT results, shown in Fig. 4, indicate earlier virus isolation with the Week 11 sample from both R1 and R2, with culture termination due to extensive CPE at Day 14: in the case of the Week 22 sample, there was a slightly delayed kinetics of virus isolation with culture termination on Day 16. This difference in the kinetics of virus isolation was also evidenced by CPE detection in the cocultures, which was seen on Day 9 in the case of the Week 11 sample and on Day 11 with the Week 22 sample. The kinetics of virus isolation with PBMNC from the day of blood transfusion for D1 showed that CPE was seen on Day 11 with culture termination on Day 18. No virus was

detected in PBMNC from R1 and R2 on the day of transfusion nor at any time from the control animal. There was no evidence of virus isolation from PBMNC of R3 and R4 at any time point tested including 1 year after blood transfusion, the last tested time; virus was isolated from D2 on the day of blood transfer (data not shown).

The identity of the viruses isolated in the coculture experiments with the Week 11 sample from R1 and R2 was confirmed by PCR amplification and nucleotide sequence analysis: the results indicated sequence identity with SFV-D1 (data not shown).

Characterization of donor monkeys

The selection of D1 and D2 as donors was initially based on the results of earlier infectivity studies, which demonstrated that the SFVs isolated from the PBMNC of D1 and D2 were distinct in their replication kinetics and CPE development: SFV-D1 had high replication and rapid CPE as compared with SFV-D2 (data not shown). To further investigate the differences in SFV transmission by blood transfusion with D1 and D2, the neutralizing antibody titer and PBMNC viral load were determined on stored samples from the animals. The results indicated a neutralizing antibody endpoint titer of 1:50 for D1 and 1:800 for D2. PBMNC viral load analysis indicated 32.4 IUPM for D1 and 3.8 IUPM for D2. Additionally, a retrospective analysis the CBC differential count indicated that the WBC count in D2 was about half of that in D1.

DISCUSSION

The identification of SFV-seropositive blood donors has raised safety concerns regarding SFV transmission by blood transfusion. A study analyzing recipients of blood components such as RBCs, filtered RBCs (WBC-reduced), PLTs, and fractionated plasma from one SFV-infected donor demonstrated absence of virus transmission,16 however, PBMNC, which are known targets of SFV infection, were not examined and the results are limited by the sample size. Based on a theoretical risk the CDC has been counseling infected people not to donate blood. 16 To evaluate the potential risk of SFV transmission by blood and blood products, we have initially determined virus transmission by whole-blood transfusion in a monkey model. Blood was transferred from two donor animals that were naturally infected with SFVs that had distinct replication kinetics and nucleotide sequences. Interestingly, SFV transmission only occurred with D1: antibodies developed at 16 to 22 weeks and persisted approximately 1 year after transfusion (the last time tested); SFV sequences were detected by PCR at 8 weeks after transfusion, and infectious virus was isolated from PBMNC at Week 11 and Week 22. The lack of virus transmission with blood transfusion from D2 was unexpected because SFV has an



Fig. 3. Nucleotide sequence identification of SFV sequences in blood recipient monkeys. Nucleotide sequences of SFV in R1 and R2 (designated as SFV-R1 and SFV-R2, respectively) were determined from DNA fragments that were PCR-amplified from PBMNC at 22 weeks after transfusion (shown in Fig. 2). Sequence comparison with SFV in the donor animal (SFV-D1) are shown: dots indicate base identity; asterisks indicate base count.

exceptionally broad host range and tissue tropism and is easily transmitted in NHPs, albeit via the saliva.³ Different factors may contribute to retrovirus transmission such as virus load in the inoculum and fitness of the donor virus. Additionally, neutralizing antibodies have been shown to block SHIV infection of macaques.^{25,26} Antibody analysis of D1 and D2 indicated a significantly higher neutralizing antibody endpoint titer in D2 compared to D1 (1:800 versus 1:50, respectively) suggesting that neutralizing antibodies may play a role in SFV transmission. Studies are under way to investigate the contribution of antibody titer in the failure of SFV transmission by D2. The results of these studies may provide insight regarding factors involved in SFV transmission and in assessing the risk of virus transmission by blood donors.

High viral load is an important determinant of virus transmission in HIV-1 infection.²⁷ In the case of SFV infection, the virus largely infects lymphocytes and monocytes,^{3,14,15} and it is believed that virus is mostly cell-associated with no detectable virus in the plasma. Therefore, we initially determined the PBMNC viral load of D1 and D2: the results indicated that the IUPM was 32.4 and 3.8, respectively. Interestingly, this is similar to the

PBMNC viral load reported in chronic infection with SIV in African green monkeys²⁸ and HIV-1 in humans.²⁹ Although the blood transfer volume was the same (10 mL), based on the CBC differential, it was found that D1 had twice the number of WBC as D2: thus approximately 29×106 PBMNC were transfused in case of D1 and 15×106 in case of D2 so that the approximate number of infected cells transferred by D1 was 940 cells and 57 by D2. Additional studies will be performed to determine whether the PBMNC viral load represents the total number of infected cells in blood and the contribution of plasma viral load, if any, in SFV transfusion transmission. It should be noted that virus fitness30 may play an important role in virus transmission from D1 based upon in vitro studies indicating that SFV-D1 had earlier replication kinetics and more rapid CPE development than SFV-D2 (data not shown). The relationship between virus fitness and SFV transmission will be investigated to assess the risk of infection by blood transfusion.

Interestingly, virus isolation occurred with more rapid kinetics with the Week 11 PBMNC samples from R1 and R2 than with the Week 22 samples

(Fig. 4). Furthermore, the kinetics of virus isolation from PBMC of chronically infected D1 was similar to that of Week 22 samples. This result suggests a higher PBMNC viral load early after infection, with a subsequent lower set point in long-term infection. To evaluate the kinetics of virus infection in vivo, longitudinal analysis of PBMNC viral load will be done on stored samples, including quantitative analysis by TaqMan PCR. Additionally, corresponding plasma samples will be tested for evidence of any SFV viremia. Analysis of PBMNC and plasma viral load may identify a high-risk window period of SFV transmission by blood transfusion. It is noteworthy that the apparent reduction in viral load in the Week 22 PBMNC samples coincided with the increase in SFV-specific antibodies (Table 1 and Fig. 1), thereby suggesting a potential role of neutralizing antibodies in reducing virus replication.

The consequences of cross-species transmission of retroviruses are unpredictable and may not be noticed for an extended period until there is a clinical outcome. This is most effectively evidenced by HIV-1, which was discovered in 1983 due to the AIDS epidemic³¹ more than 50 years after the initial cross-species infection with SIV.^{32,33} The lack of disease associated with SFV in any spe-

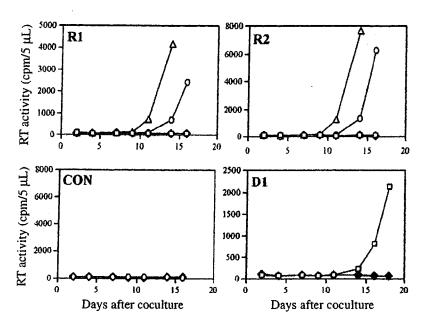


Fig. 4. SFV isolation from monkey PBMNC. PBMNC of R1 and R2, obtained on the day of blood transfer and at Weeks 11 and 22 after transfusion $(2.0\times10^6-2.3\times10^6)$ were PHA-stimulated and cocultured with M. dunni cells, until the cultures were terminated due to extensive CPE. PBMNC from the control animal (CON: Week 22; 2.4×10^6) and donor D1 (day of blood transfusion; $<2.0\times10^6$) were PHA-stimulated, and cocultures set up as controls for PBMNC from negative and positive monkey, respectively. M. dunni cells without monkey PBMNC were included as cell culture control. Filtered supernatant was collected during the culture period and assayed for RT activity (mean \pm standard deviation was calculated from two spots). Day of blood transfusion, \Box ; Week 11 after transfusion, \triangle Week 22 after transfusion, \bigcirc ; M. dunni control, \spadesuit .

cies is an enigma,³⁴ especially since foamy viruses can be highly cytopathic in cells in vitro.⁴ Due to the stable integration and long-term persistence of infectious viral sequences in the host genome, SFV might have an unexpected clinical outcome. Thus, similar to other retroviruses of public health impact, it is prudent take appropriate measures to avoid SFV exposure and infection.

The absence of known disease and lack of transmission in humans does not negate health concerns related to SFV infection in humans due to insufficient data. Demonstration of SFV infection by blood transfusion in a monkey model indicates potential risk for virus transmission in humans. The results support consideration of appropriate safeguards against exposure to SFV, or any other simian agent, through the human blood supply.

ACKNOWLEDGMENTS

We thank Lauren Davidson for the monkey blood transfusions, Raymond Olsen for monkey bleeds, and Philip Snoy and the veterinary staff at CBER for outstanding animal care. We thank Hira Nakhasi, Edward Tabor, and Jay Epstein for valuable scientific discussions and for providing helpful comments on the manuscript. We thank Elliot Cowan for facilitating contract support at SeraCare BioServices (previously BBI Biotech Research Laboratories, Gaithersburg, MD), for processing of monkey blood and Richard Herberling and Anthony Cook (Simian Diagnostic Laboratories) for helpful advice in establishing the virus neutralization assay.

REFERENCES

- Apetrei C, Marx PA. Simian retroviral infections in human beings. Lancet 2004;364:137-8;author reply 139-40.
- Aguzzi A. The foamy virus family: molecular biology, epidemiology and neuropathology. Biochim Biophys Acta 1993;1155:1-24.
- Meiering CD, Linial ML. Historical perspective of foamy virus epidemiology and infection. Clin Microbiol Rev 2001:14:165-76.
- Mergia A, Leung NJ, Blackwell J. Cell tropism of the simian foamy virus type 1 (SFV-1). J Med Primatol 1996;25:2-7.
- Achong BG, Mansell PW, Epstein MA, Clifford P. An unusual virus in cultures from a human nasopharyngeal carcinoma. J Natl Cancer Inst 1971;46:299-307.
- Schweizer M, Falcone V, Gange J, et al. Simian foamy virus isolated from an accidentally infected human individual. J Virol 1997;71:4821-4.
- Schweizer M, Turek R, Hahn H, et al. Markers of foamy virus infections in monkeys, apes, and accidentally infected humans: appropriate testing fails to confirm suspected foamy virus prevalence in humans. AIDS Res Hum Retroviruses 1995;11:161-70.
- Heneine W, Switzer WM, Sandstrom P, et al. Identification of a human population infected with simian foamy viruses. Nat Med 1998;4:403-7.
- Brooks JI, Rud EW, Pilon RG, et al. Cross-species retroviral transmission from macaques to human beings. Lancet 2002;360:387-8.
- Switzer WM, Bhullar V, Shanmugam V, et al. Frequent simian foamy virus infection in persons occupationally exposed to nonhuman primates. J Virol 2004;78:2780-9.
- Heneine W, Schweizer M, Sandstrom P, Folks T. Human infection with foamy viruses. Curr Top Microbiol Immunol 2003;277:181-96.
- Sandstrom PA, Phan KO, Switzer WM, et al. Simian foamy virus infection among zoo keepers. Lancet 2000;355:551-2.

- Wolfe ND, Switzer WM, Carr JK, et al. Naturally acquired simian retrovirus infections in central African hunters. Lancet 2004;363:932-7.
- von Laer D, Neumann-Haefelin D, Heeney JL, Schweizer M. Lymphocytes are the major reservoir for foamy viruses in peripheral blood. Virology 1996;221:240-4.
- Callahan ME, Switzer WM, Matthews AL, et al. Persistent zoonotic infection of a human with simian foamy virus in the absence of an intact orf-2 accessory gene. J Virol 1999;73:9619-24.
- Boneva RS, Grindon AJ, Orton SL, et al. Simian foamy virus infection in a blood donor. Transfusion 2002;42:886-91.
- 17. Delwart EL, Kalmin ND, Jones TS, et al. First report of human immunodeficiency virus transmission via an RNA-screened blood donation. Vox Sang 2004;86:171-7.
- Donegan E, Lee H, Operskalski E, et al. Transfusion transmission of retroviruses: human T-lymphotropic virus types I and II compared with human immunodeficiency virus type 1. Transfusion 1994;34:478-83.
- Heberling RL, Kalter SS. Rapid dot-immunobinding asay on nitrocellulose for viral antibodies. J Clin Microbiol 1986;23: 109-13.
- Institute for Laboratory Animal Research NRC. Guide for the care and use of laboratory animals. Washington (DC): National Academy Press; 1996.
- Khan AS, Sears JF, Muller J, et al. Sensitive assays for isolation and detection of simian foamy retroviruses. J Clin Microbiol 1999;37:2678-86.
- Sears JF, Khan AS. Single-tube fluorescent productenhanced reverse transcriptase assay with Ampliwax (STF-PERT) for retrovirus quantitation. J Virol Methods 2003:108:139-42.
- Karber G. A contribution to the collective treatment of a pharmacological experimental series. Arch Exp Pathol Pharmakol 1931;162:480-3.
- Hussain AI, Shanmugam V, Bhullar VB, et al. Screening for simian foamy virus infection by using a combined antigen

- Western blot assay: evidence for a wide distribution among Old World primates and identification of four new divergent viruses. Virology 2003;309:248-57.
- Shibata R, Igarashi T, Haigwood N, et al. Neutralizing antibody directed against the HIV-1 envelope glycoprotein can completely block HIV-1/SIV chimeric virus infections of macague monkeys. Nat Med 1999;5:204-10.
- Nishimura Y, Igarashi T, Haigwood N, et al. Determination
 of a statistically valid neutralization titer in plasma that
 confers protection against simian-human
 immunodeficiency virus challenge following passive
 transfer of high-titered neutralizing antibodies. J Virol
 2002;76:2123-30.
- Campbell TB, Schneider K, Wrin T, et al. Relationship between in vitro human immunodeficiency virus type 1 replication rate and virus load in plasma. J Virol 2003; 77:12105-12.
- 28. Hartung S, Boller K, Cichutek K, et al. Quantitation of a lentivirus in its natural host: simian immunodeficiency virus in African green monkeys. J Virol 1992;66: 2143-9.
- 29. Ho DD, Moudgil T, Alam M. Quantitation of human immunodeficiency virus type 1 in the blood of infected persons. N Engl J Med 1989;321:1621-5.
- Barbour JD, Grant RM. The role of viral fitness in HIV pathogenesis. Curr HIV/AIDS Rep 2005;2:29-34.
- Karpas A. Human retroviruses in leukaemia and AIDS: reflections on their discovery, biology and epidemiology. Biol Rev 2004;79:911-33.
- Korber B, Muldoon M, Theiler J, et al. Timing the ancestor of the HIV-1 pandemic strains. Science 2000;288: 1789-96.
- 33. Takebe Y, Kusagawa S, Motomura K. Molecular epidemiology of HIV: tracking AIDS pandemic. Pediatrics Int 2004;46:236-44.
- 34. Linial M. Why aren't foamy viruses pathogenic? Trends Microbiol 2000;8:284-9. □